

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：17102

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24652037

研究課題名(和文) 国際博覧会における展示映像の記録・保存に関する研究

研究課題名(英文) A study on record and preservation of event films for international exposition

研究代表者

脇山 真治 (WAKIYAMA, Shinji)

九州大学・芸術工学研究科(研究院)・教授

研究者番号：00315152

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はデザイン分野で多くの成果を残してきた「博覧会展示映像」が記録と保存がなされず、その所在も明らかでないことに着目した。この3年間の調査では1970年の日本万国博覧会、1985年つくば国際科学技術博覧会での展示映像とシステムのほとんどが残されていないことがわかった。映像の素材はフィルムであるため、一刻も早く発見して保存措置をとらねばならない。本研究の最大の成果は、日本万国博覧会の日本政府館で上映された『日本と日本人』のフィルム原版の発見である。これは8面マルチ映像作品で、市川崑が監督した。音原版は未発見である。本研究の成果を展示映像アーカイブとして次の研究に引きついでいくこととした。

研究成果の概要(英文)：It isn't preserved with a record and the "exhibition exhibition picture" for which many outcomes have been left in the design field is the case that the where one be isn't also clear for an attention point of this research. An investigation for these 3 years showed that most of an exhibition picture and a system by the Japan international Expo'70 and Tsukuba international Expo'85 of science and technology isn't left. I have also to find a moment early and take preservation measures because the material of the picture is a film. The biggest outcome of this research is discovery of a shown film original plate of "Japan and Japanese" at a Japanese Government house of the Japan World Exposition. 8 sides of this was a multi-picture work, and Kon Ichikawa directed. But the sound original plate is undiscovered. I decided to be taking an outcome of this research over in the next study as an exhibition picture archive.

研究分野：マルチ映像

キーワード：展示映像 国際博覧会 アーカイブ

## 1. 研究開始当初の背景

映像研究の代表的な対象に映画がある。国内外で公立のフィルムセンターがあり、1895年(映画の発明年)以降のほとんどの作品が厳格な温湿度管理の下で保存され、上映可能な状態に置かれている。しかし博覧会等で制作・上映される展示映像は保存されることは極めて稀である。特にマルチ映像は上映システムが複雑であるため、オリジナルを残すことは皆無に等しい。映像研究(ことに展示デザイン)の一翼を担う対象でありながら実質的な研究は国際的にもほとんど手つかずの状態である。博覧会の展示映像は、同時代の最高のスタッフを擁して制作され、先進的な技術とノウハウを結集した成果であるにもかかわらず、イベントでの時限上映であり上映システムも映画のような国際標準でないという理由で、記録と保存はおざなりであり、映像デザイン研究の大いなる欠損分野となっている。

## 2. 研究の目的

本研究の対象である「展示映像」とは、博覧会や見本市等の展示会、博物館、テーマパーク等で使用される非劇場映画の総称である。代表的なものとしてマルチ映像、大型映像、立体映像等があり、撮影・上映のシステムも多様である。

国立近代美術館フィルムセンターは劇場映画を組織的に記録・保存している一方で、博覧会で上映される展示映像はその時代に<sup>前年</sup>における代表的な映像でありながら、展示映像<sup>フィルム</sup>はその対象になっていない。記録・保存は<sup>らび</sup>皆無である。本研究は貴重な映像資産が廃棄あるいは散逸することを回避し、アーカイブスとして管理することを目標に、展示映像研究の基盤づくりを目指した研究である。たとえば1970年日本万国博覧会の日本政府館で上映された8面マルチ映像(右図)は市川崑監督作品で、幅48mの史上最大のマルチスクリーンと評価されるが、フィルム原版の所在すら不明であり、その全貌を再現することはできない。世界的に見ても博覧会の映像はほとんど残されていないが、それはコンテンツ自体もさることながら、撮影機材、上映システムから上映記録自体も同様である。展示映像の研究が大きく立ち遅れている最大の理由である

## 3. 研究の方法

### 1. 平成24年度計画

(1) 日本万国博覧会における映像展示データの作成

当博覧会には政府及び国内出展数は31であるが、そのうち映像を主とした展示は17館が採用している。データベースは以下の項目で作成する。

出展者、パビリオン名、建築概要、展示概要、映像作品の概要、映像システム、タイトル、構成概要、上映時間、上映回数、客席数、複合的演出あるいは特殊効果(照明、ライブ等)、プロデューサー、監督、代理店あるいは制作会社、スタッフ、運営計画等。さらに展示映像の著作権、メディア、保存記録と管理等。

基本的な資料は日本国際博覧会機構、各出展企業の資(史)料室、日本展示学会、テレビ映画製作者連盟等で所有のものを調査。さらに当時代理店として担当した(株)電通、(株)博報堂、ならびに展示会社である乃村工藝社、丹青社、日展の資料室も対象とする。

(2) 麗水国際博覧会の展示映像取材

本博覧会の映像展示データとしては平成24年度取材の基本項目を押さえると同時に、上映記録、閉幕後のコンテンツの保存と管理について、各出展者ごとに調査する。ただし本博覧会の展示映像はほぼ100%デジタル映像と考えられるため、フィルムとの保存方針の違いについても精査する。

### 2. 平成25年度計画

24年度の作業を引き続き行くと同時に、フィルムまたは複製品の所在と管理状況ならびに著作・上映権等の権利関係の詳細を明らかにする。

(1) 日本万国博覧会での、日本政府館ならびに企業館で制作された映像作品の保存の現状についての実態調査

日本政府館：第5ホールで上映された8面マルチ映像『日本と日本人』

電気事業連合会：5面マルチ映像『太陽の狩人』

サントリー：6面マルチ映像『生命の水』

(2) 日本展示学会、または芸術工学会において成果の中間発表をおこなう。

題目は「1970年日本万国博覧会の展示映像の保存状況とアーカイブスの可能性(仮題)」とする。

(3) 展示映像の保存についての海外調査

仏「フチュロスコープ」は世界でも類例を見ない「映像テーマパーク」である。すでに

20年の運営実績を持っており、場内のマルチ映像、立体映像、大型映像等の展示映像の記録保存については将来の展示映像アーカイブへの参考となる。

### 3. 平成26年度計画

(1) 研究成果として発掘した資料(日本政府館、あるいは電力館のマルチ映像を想定)の公開に向けた実験上映の計画を策定する。擬似的な再現を試行する。

(2) 日本展示学会、芸術工学会において成果発表をおこなう。

(3) 研究継続。他の国際博覧会を含めた展示映像の保存とアーカイブに向けて、国立近代美術館フィルムセンターに対して問題提起を含めて「成果報告と提案書」を提出し、次年度以降の科研費への応募申請を行う予定である。

### 4. 研究成果

本研究の最も重要な成果は1970年日本万国博覧会(大阪万博)日本館で上映された8面マルチ映像『日本と日本人』のフィルム原版を発見したことである。以下はその成果を新聞発表したものである。

#### 概要

1970年開催の日本万国博覧会の日本館で上映され、その後所在不明だった8面マルチ映像作品『日本と日本人』のフィルム原版を、先月東京都内にて発見しました。この作品は市川崑監督によるもので、富士山の四季とその山麓に生きる無名の人たちをとおして、日本と日本人のすがたと精神をとらえ、将来を見据えて描かれたものです。

博覧会等で上映される展示映像は、劇場映画とは異なり会期終了後に保存する習慣も組織もありません。さらに撮影と上映のシステムも世界標準がないためほとんどが廃棄されています。そのため貴重な映像原版も同時代の最新技術も、当時にさかのぼって調査することはたいへん困難を要します。展示映像を保存するためには、可能な限りそのシステム環境演出も保存しなくては意味がありません。このような「展示映像アーカイブ」は世界でも例がないため、このフィルム原版発見を、アーカイブを実現する契機にしたいと考えます。

#### 背景

『日本と日本人』は1970年日本万国博覧会の日本政府出展「日本館」のために制作された映像です。上映形式は8面マルチ映像(縦2面×横4面)で総スクリーンサイズは高さ16m×幅48mにもなり(図1、図2)、使用フィルムは35mmダブルフレームで

最新の国産映像技術を駆使したものでした(図3)。



図1

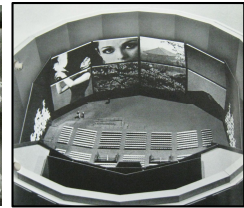


図2

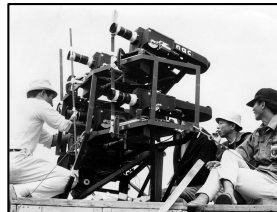


図3

監督：市川崑、脚本：谷川俊太郎、音楽：山本直純という製作陣容です。

このフィルムは博覧会終了後に保存と管理の責任所在があいまいなまま時間が経過し、今日にいたっては「一切残されていない」とされてきました(「国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議2007」での報告)。しかしながら残されていないという根拠自体が不明なため、原版の所在調査を開始しました。

万国博覧会で上映される展示映像には『日本と日本人』のようなマルチ映像、立体映像、全周映像、全天球映像、大型映像などさまざまな形式があります。仕様が多岐にわたり複雑なため、オリジナルを残すことはきわめて希です。展示映像は映像デザイン、展示デザインの一翼を担うものですがこれらを保存することは、国際的にもほとんど手つかずの状態です。その時々最高のスタッフを擁して、先進的な技術とノウハウを結集して製作されながら、映画のような国際的な標準仕様がないため、記録・保存はおざなりです。これは映像デザイン研究のおおきな欠落分野となっています。

#### 調査結果

2013年5月27日(月)九州大学大学院芸術工学研究院の脇山真治は、(株)マジカイメージワークスの小野雅史氏の立ち会いのもと、東京都内の民間倉庫において、『日本と日本人』のフィルム原版を発見し、日本万国博覧会終了後43年目にしてその存在を確認しました(図4、図5)。

原版は2,000フィート缶に入っており、1スクリーン当たり3ロールに分けて収納され、合計24缶あります。状態の詳細(カビや傷、退色等)は未確認ですが、巻き取り状



図 4



図 5

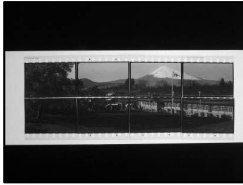


図 6

態で目視確認した限りでは良好とおもわれます。残念ながらこの作品の音源の発見にまでは至っていません。

またこれに先立って(独)日本万国博覧会記念機構(大阪府吹田市)の文書資料室での調査にて、完成版「フィルムコンテ」の存在も明らかになりました。これは作品全編をポジフィルムの切りぬきと組み合わせによって8面を構成し、絵コンテ状に配置したもので、撮影前の「絵コンテ」と異なり実際に上映された作品そのものの、全体のストーリーの流れが把握できるものです(図6)。

『日本と日本人』のテーマと今日的な意義

この作品は日本館の展示テーマをうけて、日本館の締めくくりとなるもので、「日本と日本人」の姿とその精神をとらえるため、日本のひとつの象徴ともいべき富士山と、その山麓における無名の人たちの生活をテーマとしています。富士山と向き合い富士山と闘いながら生きている母娘をとおして日本人の魂のふるさとを掘りおこして未来を見据えようとしています(上映時間 20 分)。

今日、富士山は世界遺産登録を目前に控え、富士山と日本人の精神性があらためて注目されています。日本の高度成長の一方で、すでにその命脈がこの『日本と日本人』にもあるとすれば、フィルム原版的発見は、1970年当時の日本人と富士山との関わりを、世界に向けたメッセージとしてどのように発信したかを知る貴重な映像と思われる。

今後の展開について～展示映像のアーカイブをめざす～

博覧会のために制作された映像は、劇場映画と異なりほとんど残されていません。『日本と日本人』の発見は、今後「展示映像アーカイブ」へ発展させたいと考えます。これには権利関係はもとより、映像と環境演出や展示造形デザインなど、劇場映画にない多岐に

わたる構成要素がありますので、記録・保存も単純ではありません。しかしイベントの終了によって映像も消滅するという流れには、歯止めをかけなくてははいけません。

映像のアーカイブといえは映画に注目が集まりますし、国の支援もそこに集中しています。しかし展示映像も貴重な映像文化遺産として、映画にならぶアーカイブを目指したいと考えています。今回のフィルム原版的発見によって、研究者はもちろんのこと、一般の方々にも「博覧会で上映された映像」に関心を持っていただき、世界に先駆けて産官学による展示映像アーカイブを実現したいものです。

#### 市民への公開方法

この『日本と日本人』の原版的発見は、当時の展示映像の再現を可能にする第一歩と考えます。すでに映写設備は廃棄され存在しませんので、デジタル化したのちに擬似的な上映になるでしょう。それでも日本で初めて開催された万国博覧会を代表する巨大な展示映像を再現上映することは、その技術と表現の先進性をひも解くと同時に、富士山とともに息づく同時代の日本と日本人の精神性を、今日の若い世代が知る上で貴重な機会になると考えます。全国巡回上映会が可能であれば、より多くの人々の関心も高まるでしょう。縮小合成版ができれば、東京国立近代美術館フィルムセンターとの共同上映企画あるいは小劇場での上映もできるでしょう。

.....

以上が新聞発表内容である。また本研究の中間報告として日本展示学会にて展示映像が残されていない現状について発表した。以下はその概要である。

#### 大阪万博日本館の展示映像

##### 『日本と日本人』の行方

##### ～展示映像のアーカイブに向けた調査～

##### 1. はじめに

博覧会等で制作・上映されたいわゆる「展示映像」は記録や保存についてのルールがなく、期間限定の催事が終了した後はほとんど残されることがない。特にフィルム上映のものは、保管スペース等の物理的な問題もあってかつての作品の多くが廃棄されている。1970年に開催された大阪万博は我が国では初めて「映像展示が会場を席卷した」博覧会となった。そのなかでも最高の国産技術とスタッフを投入した作品が日本館で上映された8面マルチ映像『日本と日本人』である。

この作品はその後どのように保存されているのか、あるいはされていないのか。そのフィルム原版と関連資料の所在と管理状況を明らかにすることが本研究の目的である。

1960年代以降に開催されたほとんどすべての国際博覧会は、主たる展示に映像を使う出展が目立っている（すでに1900年パリ万博から映像展示はあるが、それが本格的に展開するのは戦後である）。展示史を語る上で欠かせない展示映像を確実に残してアーカイブすること。これを本研究はめざしている。

## 2. 日本館の展示における『日本と日本人』

大阪万博の日本館はいうまでもなく日本政府出展のパビリオンである。5つの展示館がありその最終ステージである5号館が、「日本と日本人」という全体の展示テーマの総括としての映像シアターとなっている。上下2段×横4の8面マルチスクリーンとして設置された。全体のスクリーンサイズは16m×48mという史上屈指の巨大なものである。撮影、上映ともに35mmダブルフレームのフィルムが使用され、そのシステムは国産の技術であり、これらによって前例のないスケールの映像展示を実現した。

この作品の監督は市川崑、脚本は谷川俊太郎、音楽は山本直純で、同時代最高のスタッフをそろえた。映像のテーマは富士山とその山麓に生きる人々をとおして明日の日本の姿を探求することである。

通産省万国博準備室が1967年11月に策定した「日本万国博覧会政府館構想案」によると、映像ホールの当初案は13面マルチスクリーンによる映像展示ホールだった。タイトルは『あす』。上下150度、左右180度の視野角をもつものである。この時期、モントリオール万国博が成功裏に終えた直後であり、マルチ映像満載の展示に強く影響されていることがうかがえる。当地の日本館はマスコミから酷評されただけに、汚名返上の企画として立案されたことは想像に難くない。いうまでもなく予算や確実な運営、実現可能性等が勘案され1968年7月の「基本計画」で8面マルチ映像となりほぼ最終形が確定した。

## 3. 関連資料の現状

日本万国博覧会の閉幕後『日本と日本人』はどうなったのか。劇場映画なら製作会社内で管理されるか、あるいは国立近代美術館フィルムセンターに寄贈、寄託という方法で保存される。ハリウッドではフィルム原版、プリント原版、3色分解白黒ネガなど一式が確実に保存されており文字どおり「アーカイブ」の教科書的な活動が定着している。

『日本と日本人』については、2007年東京で開催された国際フィルム・アーカイブ連盟の年次大会の折「市川崑監督の37年前の作品がすでに一切残されていないということをごだけの人知っているだろうか」（註：映画テレビ技術2007年6月号p35）と問題提起された。しかし残されていないことの根拠については何も示されなかった。2010年東京国立近代美術館フィルムセンターにて取材した結果、展示映像は原則的に保存の対象となっておらず、1970年の展示映像は収集されていないことを確認した。2013年1月、日本万国博覧会記念機構にて第1回調査を実施。フィルム保管庫には多くのフィルムが残されているが、『日本と日本人』関係のフィルムは存在していないことがわかった。第2回の調査では文書資料庫の日

本館関連を精査した。文書棚には複数の関連資料がありその中に『日本と日本人』の完成時に納品されたと思われる「コンティニューイティブファイル（絵コンテ）」が残されていた。これはプリントされたフィルムの一コマを抜き取って、8面分を組み合わせたものをシーンの代表カットとして張り合わせて、時間軸に沿って並べたものである。絵コンテといいながら実際は「絵」ではなく「ポジフィルム」である。したがって計画段階のコンテとは異なり、上映作品そのものの連続性が確認できる唯一の資料といえる。ファイルは49ページあり各ページに4シーン、合計196シーンが整理されている（14か所が欠損または所在不明）。

撮影機材は日本独自技術による開発で、35mmダブルフレームのカメラがつくられ、ニコンレンズが装着された。8台のカメラはその後廃棄されたが、1台のみが製作を担当した（株）ナックによって保管されていることはすでに報告済みである（2010年日本展示学会大会発表）。

## 4. 製作に関する発注と受注

作品の製作会社は東宝株式会社である。通常の劇場映画であれば残されているはずの製作に関する契約書は、平成25年3月時点で社内に残されていないことが確認できた。そのため東宝からの調査許可について確約を得られないまま、「調査に異議を唱えるものではない」という曖昧ではあるが前向きな回答を得て進めている。おおよその目処はついたとはいえ権利関係が不明確なままでは、おそらく保管されていると思われる東京都内の「フィルム保管庫」への入室は少々時間を要するだろう。

一方、作品の発注者は通産省である。その指示を受けたJETRO（日本貿易振興機構）が撮影機材と上映システムおよび、コンテンツ製作の発注を代行し、各社を指名した形となっている。東宝

への発注契約書はどうか。契約書の保管期限は10年となっており当時のものはすでに廃棄されている(JETRO 東京本部展示事業部展示事業課)。

#### 5. まとめ～調査の難しさ

前項で触れた「フィルムコンテ」の発見は本研究の成果のひとつである。シノプシスと合わせて見ると作品の全貌が見えてくる。しかし『日本と日本人』のフィルム原版自体が破棄された事実は確認されないものの、現時点ではそこに至らず、本研究は目的を達成していない。その理由は製作に関する契約書の内容が確認できないために『日本と日本人』の原版保管の責任があいまいであること、それゆえに利害関係者のいずれもが責任ある調査許可を出せないことにつきる。展示映像をアーカイブすることは、その展示環境も含めて残すことを求められるが、期間限定の博覧会を対象とするとこれは現実的でない。さらに撮影・上映機材が残っていないために、原版が発見されたとしてもオリジナルの再現は事実上不可能である。ことに国際博覧会の展示映像は単に映像コンテンツのみの調査にとどまらず、展示ストーリー、空間演出、展示との連携など周辺情報も収集せねば、擬似的な再現もできない。

調査は多岐に及ぶが、喫緊の課題はまず原版にたどりつき、責任保管の体制をつくることである。将来的には展示映像とその環境とをどのように記録し、保存していくか、次世代に残すべき姿を関係者の知見を得て検討したい。

#### 6. 今後の課題と予定

本研究の最初の目標である『日本と日本人』の原版確認(有無の確認)は最終段階となった。博覧会で製作された映像の保存責任のあいまいさは、ひとり『日本と日本人』に限らず多くの展示映像が同様の環境にあると考えられる。特にフィルム時代の展示映像資料の一刻も早い発見と、適切な保管環境の確保が喫緊の課題であると考えられる。

本調査の過程で、同じ大阪万博のみどり会が出展したみどり館の「アストロラマ」で使用されたフィルムの存在も確認した。製作は五藤光学で、今日プラネタリウムやドーム映像の原点となる国内初の全天周映像である。これも映像展示館として大阪万博の人気館のひとつとなった。現存するフィルムは必ずしも良好な状態ではないため修復措置も必要だと思われる。と同時に、パビリオン展示や「アストロラマ」の再現方法についての検討も行う予定である。

#### 5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

〔図書〕(計 件)

〔その他〕

ホームページ等

新聞発表：2013年6月14日(報告書前掲)  
URAのWEBサイト記載 2015年5月

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

脇山真治 (WAKIYAMA Shinji )  
九州大学大学院芸術工学研究院 教授  
研究者番号： 00315152